

北海道と内地の預託事業の意見要望を伝える



全酪連主催の平成23年度乳用育成牛斡旋及び初妊牛売買事業全体会議が開催され、北海道の預託受入農家と組合職員、内地の預託農家並びに組合職員らが出席し、双方の希望や要望を伝え意見交換を行った。

近年の預託事業では全体で3千頭の預託実績がある中で、広酪は平成21年145頭、平成22年124頭の預託実績がある。今年度は172頭が預託中で、組合員からの意見・要望も多く、現地預託牧場の飼養管理状況の視察を兼ねて櫻木茂夫事業推進課課長補佐が出席した。

■主催者挨拶

小谷英穂氏(全酪連購買部部长)

原発事故・冷静な判断を!

▼今年発生した東北地方太平洋沖地震に対して被災された方に対してお見舞いを述べられ、この中で特に原発事故に対しては「正しく怖がる」事が重要で、「放射能が検出されれば不可、未検出であれば可」となる情報に惑わされない事が重要と指摘された。配合飼料価格は原産国のトウモロコシ生産が不作であるが、円高の影響で十月以降は多少の値下げが見込まれる。また、平成二十三年七月以降の上牧牛代金について、月齢に応じて一万円から二万円の上上げを実施したと報告された。

■意見交換

一 内地側の意見

▼買い上げの評価価格を二万円程度上げて貰いたい。評価の基準はどうなっているのか。

↓月齢に五万円程度プラスした基準で

評価している。

▼価格を上げた二万円の内、千円を財源として互助会を設け、事故牛の見舞金制度を検討頂きたい。

↓評価額の内輪の額面でなく、別途出費頂く事で検討したい。

▼帰着時の価格評価が実施されていない。上牧時のみであり適正でない。

▼受胎の悪い牛では二十一日周期で五回の再発があり、授精が繰り返されている。PGなど治療して頂きたい。対処経過も伝わって来ない。特に共同牧場において見受けられる。

▼良く出来た牛は高く評価して、意欲を高める方式を検討頂きたい。

▼授精報告の連絡が遅い。北海道での日付と四十日の差があり、こまめな報告を頂きたい。

↓全酪職員に報告を強く指導する。

▼授精開始の基準はあるのか。

↓十四〜十五ヶ月または体高百三十cm

▼ヨーネ病のカテゴリーの農家から発送した牛が、帰着後、数年後にヨーネ病の検査で因果関係は不明であるが陽性となった。北海道における検査等の対策を検討頂きたい。

▼現在、六ヶ月から十二ヶ月で上牧している。三ヶ月からOKとあるが、それ以下の上牧は出来ないのか。

↓受け入れ牧場の状況にも差があるの
で、各支所に連絡・相談してほしい。

▼雌雄判別精液の授精は一回と限定されている。二回から三回の実施を検討願う。

二 北海道側の意見

▼雌雄判別精液の授精希望が多くなってきた。受胎率が悪いことから危険性に対する補償の検討を頂きたい。(受胎遅延による飼料代の増加)

▼指定精液を途中で変更される場合がある。また、授精希望が上牧時に確認出来ない牛がある。精液は早期に確保することから、早めの対応を依頼する。

▼除角は早めの終了を依頼する。上牧間際では化膿することがある。また、健康な牛を上牧して頂きたい。

▼妊娠鑑定書の効力期間が短いことから、下牧間際に実施している。早めの実施を了解頂きたい。

▼十四ヶ月齢でAI可能となる牛を上牧頂きたい。

北海道預託牧場視察



▼新津牧場(名寄町農協)

預託受け入れ状況：約100頭。ロールカッターを導入したことで喰い込みが大変良くなった。(感想) 肋張りも良く、牛のバラツキがなかった。妊娠確実で下牧(内地に帰る)対象でない牛については、放牧場に放牧されていた。

▼原牧場(土幌町農協)

預託受け入れ状況：約80頭(最大140頭)

▼戸崎牧場(上土幌町農協)

預託受け入れ状況：最大140頭(内広島県46頭預託中)
 受精卵移植の受胎率が高くなった。

HARU衛生管理研修会(コンプラ研修)

8/31 ゆめさくら



店舗・製造室内でヒアリングする梅原代表(写真中)



店舗・製造室内等で撮影した要改善箇所をプロジェクターを使って映し出し説明する梅原代表(左端)

「洗浄」が基本！
改善意識の高揚を図る

市乳販売促進課は、ミルクファームHARUでのアイスクリーム製造や店舗販売における衛生的環境の向上と製品事故等の未然防止を目的にHARU店舗職員、市乳販売促進課職員、事業推進課長を含め六名が参加して、衛生管理研修会を開催した。

研修は、梅原健治氏(有限会社ベッセル代表)を講師に迎え、アイスクリーム製造で発生しやすい菌やその特性などの説明を受け、製造手順のヒアリングと店舗・製造室内での改善点等を参加者らで確認した。

梅原代表は「基本は菌を付けない。増やさないこと。その上で、如何に増殖させないかが重要。殺菌だけでなく、しっかりと洗った洗浄が基本」と強調され、参加者らは衛生管理の重要性を再認識した。

亜熱帯気候で営む酪農経営に暑熱対策を学ぶ

外気温 36.9℃ 牛舎内 32.5℃



全酪連近畿中四国酪農団体協議会
(会長 福田信一郎・大山乳業農業協
同組合代表理事組合長は、沖縄県で
の管外視察研修会を実施し、十一会員
からの十五名に加え事務局の全酪連大
阪支所長ほか二名が参加し、同県で酪
農を営む牧場での暑熱対策や沖縄県酪
農業協同組合(八重瀬町)の概要等を学
んだ。

この視察では、数日前に台風十一号、
十二号の同時発生を受けて、気象状況
を気にしながらの行動であった。

■視察牧場の概要と特徴

【(有)嘉陽牧場(豊見城市)】
かよう とみくすくし

○概要

同牧場は、フリーストール牛舎に経
産牛八十八頭を飼育し、年間八百十八
トンの生乳を生産される。特徴は、専
ら後継育成牛を抱えず乳用初妊牛を毎
年北海道から導入される。平成二十三
年度は五十頭を導入。労働人員は、代
表者、その息子さん二名、雇用一名の
四名で従事。

牛舎は、業者に委ねず総てご自身が
設計し建築。材料は、高圧電線鉄塔の
鉄骨材の払い下げを受け活用されてい
る。この支柱はどぶ付けされ錆びにく
く良いと評されていた。(写真上)

機械、施設、初妊牛導入に国や県の
補助金は無く、総て自己資金で賄われ
ている。

乳価は七月、八月、十月は夏乳価
百三十円、冬乳価百円。

経営主からの「酪農は良い仕事です。
経営者の工夫次第で充分やって行けま
す」との言葉は印象的であった。後継
者二名が従業員として加わっておられ
る状況がこれを物語っていると感じ
た。

○暑熱対策

噴水ノズル(細霧式)を約一メートル
間隔に設置。噴水ノズルからの散水と
ともに、換気扇(三十六基)がフル稼働
していた。一日中(二十四時間)この状
態を続けておられるとのこと。



同牧場訪問は午後二時前であったが、外気温三十六・九℃に対して、牛舎内は三十二・五℃と四・四℃の差があり、涼しく感じられた。

こうした環境の中、ストールに横臥し穏やかに反芻をするものや、噴水直下で涼をとっている牛もみられた。

○飼養管理

水は上水を利用し、電気料と合わせて月額八十五万円の支出であるとのこと。気になる経産牛一頭当たりの乳量は三十kgを確保。飼養管理は、輸入粗飼料のアルファルファ、スーダンに配合飼料を混合したTMR飼料を自走式給餌機により給与されている。

○堆肥処理

堆肥舎を所有されず、敷料を施さない牛舎から糞尿はバースクレッパを介し固液分離器で脱水。脱水した固形分は牛舎の地下部分に配備する二トンダンプに積載。それが二日で満載となり、耕種農家に一万円/トンで販売される。液分は、尿タンクを介してバキュームカーを経由し耕種農家の圃場に散布される。



■沖縄県酪農業協同組合の概要と特徴

○概要



同組合は、沖縄県を一元とする組織で出資金は二億四千六百七十一万円。役員は九名(理事七名・監事二名)、組合員数百十六名、職員数十三名(全酪連駐在員一名を含む)、生乳出荷戸数は七十七戸。平成二十二年度の生乳受託販売量は、二万四千二百七十六トンで、総て自県の乳業者で処理販売される。クーラーレーションは無く、総て直送され乳業者に届けられている。生乳不足時は九州生乳販連からの移入で補充されている。

組合として販売、購買、生産指導、補助事業、リース事業、凍結精液配布事業の活動にあたられている。

○新規就農への働きかけ

同組合の入り口には、『新規就農者募集』の大きな看板が設置されていた。現在、全国に向けて新規就農者募集を発信し、このバックアップに沖縄県の行政も尽力されている。

これは、廃業酪農家の跡地に新規就農者を迎え入れようとするもので、生乳生産基盤の維持等を図る狙いがある。この実態は、排泄物処理の問題など地域住民とのかかわりもあり、なかなかはかばかしくないといった状況であった。

